

「光榮ある當選」を普選の門出に、なし
た。只今は云ふのみだ。吾が心、いはれ知
れぬ感慨に充満す。更に思ふに書き列ぬべき
か？ 果た是れに筆を断つべきか？ 惑はざ
るを得ず。

政戦美談 選挙醜聞
を耳にする事稀にして、
を頻々として、道途聴くが故に。

普選の断頭臺に落命イヤ落選したる人々も、光
榮ある普選の首途に、名譽の月桂冠を戴きたる人
々も、敗者も、勝者も、深觀内省せねばならぬ一
事は、人生の全部は勝敗のみあるばかりではない。
政戦敗れて、天を恨み人を咎め、勝者を呪ふは
小人愚者の業、共に憲政を語るに足らず。
政戦勝つて、我こそは天下の大政治家なりと有
頂天になつて狂喜するものあらば、敢えて、一撃
を與へて云ふ。縣議などは政治家の端くれなり
と。況んや、光榮ある普選の首途に、
『清き一票』を胃瀆して、當選の榮冠を得
るとも、そは斷じて、名譽ある榮冠とはいひ得まい

新秋窓を訪れて

榎本紀一

新秋九月と聞いたときもさや／＼としたけは
ひを覺える、半ばを過ぎた此頃息を吐けば空のは
てにその息が映るやうにも思はれる、頭をもたげ
て見た空の色が何かしらほんとうの新らしい秋の
色になつてゐる様だ。ホイットマンの詩ではない
が樹の葉草の葉などにふれる音色が引きしまつた
秋の感じを與へてゐる。窓を忍んで軽く頬にふれ
る風にも無心でゐるとハット驚かされる。一寸し
たことにも静思はすにはおられぬといふ感じが何
處からともなく訪れてくるやうに思はれる。去年
はちやうど千葉に居たが宵闇迫る頃下宿の裏山を
辿つて、千葉常胤の城趾だといふ玄の鼻山に上つ
て見ると新しい水のやうな夜氣に薄著の袖も濡つ
て眼の下に望まれる街々の灯影を眺めてみると、
物寂しさに何か人戀しい心持がしてゐるのを覺え
た、新秋夜坐といふ感じは自分にとつて最もすき
なものである。それは單に静かだといふのみでは
なく、透徹した氣分が新しいリズムとなつて心を支
配してゐるからである。ジツとひとつところに坐

して自然を眺め、冥想に耽るいふことは何といつ
ても、東洋人の持つ先天的な情趣の一つであらう
そこに東西兩文明の違ひがあり、調和が生れてく
る所以である。一本一石にもやみがたき涙を流し
魂を躍動させる、その涙、その魂のうちに詩が生
れ、藝術がはぐまれてくる。詩と現實とは並行線
の無限大だ、常に間隔を持つが詩を解する人にし
て現實と理想のきしり合ふ現實の悩みを知ること
が出来ると思ふ。

人間生活のあらゆる文化内容を形づくる、エレ
メントの中經濟生活が基調となつて作用してゐる
現代資本主義的經濟組織の社會環境では經濟的價
値の尺度で臨む場合、少くともかうした態度はあ
まりに價値のない非生産的のものであるかも知れ
ぬ、それは近代人の感覺が認識と批判の眼をもつ
て見ることに習慣づけられてゐる事に基因するか
らである。マルキストも、コミュニストもはたま
たマチャーリアリストも、その辯證法的唯物論の認
識過程に従つて、自然は自己の目的意識で、それ
自身を發展させてゆく、それをあるがまゝに觀察
し、讚美し、センチメンタルな態度で臨むことは
自然的進化的法則を見究め得ぬブルジョアジイ思
想の惰性であるといひ、唯物論的世界經濟觀から
しても、消費系的意識の所有者であるとする。

然し、フランスの政治哲學者ルッソも「自然
に還れ」といひ明治の文豪國木田獨歩も「自然に
おどろけ」といつた彼等は、自然をあるがまゝ、
に眺めて、その神秘力の偉大さに心をうたれ、自
然を神の高きままでのぼしてゐる。然しそれら
の自然觀は先きのロジックをつくり上げた、科學
的社會主義者達の範疇に入るれば、明かに消費系
的意識のものであるに相違ない。兼好法師も、西
行も、芭蕉も、藤村氏も、弦二郎氏も、またこの
種の人達に違ひない。明治、大正の自然主義文學を
一轉期として、それ以前のわが國文學は少くとも
近代意識の考へ方によれば、消費系的意識に屬す
るものだらうが、文學が人間の内的必然性の理想
と、その表現とを生命とする限り、個人を條件づ
ける社會環境を無視する譯には行かなくなつてき
た。それは社會進化の必然性として、移りゆく日
日の社會現象が社會學的認識の方法として、主要

素を占め政治、經濟、法制、理藝術、宗教などあらゆる
人生の文化内容の基調となつてきたからである
政治において殊にそうである。國家は政治の主
體であり、政治は國家の活動であるが、從來の正
統派國家論政治學説を見るに、自然法學説、殊に
ドイツ法學萬能の各國家では、法學を基調とする
モール、ホルツェンドルフ、ブルンチユリー等を代
表的とする國家學説で國家を一の擬制的法的實在
としての方法論的觀察で、國家を構成する諸社會
群及び社會進化過程上における、動的變化を、ある
がまゝに觀察するといふ人間の實生活に根を下す
史的乃至社會學的認識の方法を無視していたも
ので、政治學説は、よしそれが専制君主政治にせよ
立憲君主政治にせよ、支配階級の主觀的認識の産
物に過ぎなかつたもので、ドグマと抽象とを持つ
一つの國家理想を持ち出して、それを現實國家の
目的だとして掲げたのである。従つてそれらの上
にわれ／＼は、殆んどあらゆる場合自然法學的系
統の國家觀が、乃至は理想主義的國家觀、然らざれ
ば、功利主義的國家觀の影を何處かに認めな
い譯には行かない。元來政治現象の觀察に當つて
は、事實の認識の中に價値の測定が、交錯され易
いものである。今日の政治思想の諸分流の多くの
もの、基礎となつてゐる、古代ギリシャの政治思
想の中にも例へば、プラトニーやアリストテレスの
國家論や政治學説がその核心に倫理觀念を多分に
持つていたことは明白に知り得る。第十八世紀に
おいて全盛を極めた、自然法學派の政治思想も、
倫理觀や功利主義的見解が、その重要部分を形づ
くつていた、それから、この反動として起りヘーゲ
ルにおいて最も、顯著な代表者を見出した。理
想主義的國家思想においても、あるがまゝの事實
の認識とあらねばならぬ。價値の測定との交錯と
が一層甚だしい。ヘーゲルの國家論もその前の自
然法學系統の學説と共に、今日なほ政治思想の主
潮の中で、活きた力となつて働き續けてゐるが、そ
の人間の實生活に超越した神秘的な、世界精神を
國家進化の指導原理として掲げたことによつて、
全學説を非科學的な國家禮讚の頌歌に終らしめた
のである。

かくして、被支配階級概念宣傳の效果に、魅せ
られ支配階級が掲げる、形而上學的性質の諸概念
は超現實生活の指導原理でもあり、普遍的安當性
を有する規範でもあると考へていたが、次第々々
にその迷夢は醒めて、支配階級から宣傳された諸
概念はすべて、支配階級の利害關係から送り出で
たるもので、彼等の特權擁護のために、役立つも
のであることを覺り初めたのである。

如何なる時代においても、反抗運動は、反抗者の群
れの現實生活上の體驗からくる要求に根ざすもの
である。フランス革命に烽火を擧げた、ブルジョ
アジイの革命の起つたまでの過程においてもそう
である。現代のプロレタリアートの解放運動も、
プロレタリアートの生活の現實に對する眼ざめか
ら促成されたもので、その解放運動の根本的動機
は、それは資本主義的經濟組織が生んだものでこ
そあれ、何處までもプロレタリアートの生活事實
である。支配階級からの概念宣傳の迷夢から醒め
かけた。プロレタリアートは實生活上の體驗と、
その生活様式の影響とを通じて、歩一歩、集團的生
存表現への道に、赴く傾向を示してゐる。そしてこ
の傾向は近代的資本工業の帝國主義的環境の下に
置かれてゐる。プロレタリアートの側から最も強
く萌さし初められた、この階級はそれが一個の社
會人としての集團的生存表現力をます／＼多く得
れば得るだけ、社會的的政治的闘争における、一要
素として、大きな働きを成し遂げ得る見込みを持
たれてくる。

グンプロウイツやラツツェンフオーフを待
たずとも、共通の利害關係を有する、諸社會群殊
に經濟的には無産大衆、政治的には被支配階級の
群は經濟闘争の上にも、政治闘争の上にも再
しつゝある、支配階級としてのブルジョアジイが、
この事實の前に或る脅威を覺へつゝある通りに、
個人的自由主義的思想の基礎の上に築き上げられ
てゐる。從來の正統派政治學もまたこの事實の前
には無力状態に陥らんとしてゐる、新しい政治學
は、この社會進化の必然性がもたらす動的社會現象
を、經とし社會現象を生み發展し發達せしめつゝ、
ある社會狀態を緯として、動的研究を基調として
樹立されねばならぬと思ふ。

新秋の訪れるにつれてこの新しい社會現象、政治
現象の明日への推移發達の歩一歩が如何に成り行
くか興味と研究を要すべき問題であると思ふ(終)

金山崎合名會社

釜屋商店

振替貯金口座東京一〇九五六番

砂上偶語

村の政治狂と、町の演説狂選舉終つて、ほどなく政憲クラブに、偶然落ち合つた。

政治狂「ヤア……しばらく……」

選舉もきまつて、大風一過の有様ダネ」演説狂「全くだ。秋風落漠、孤城落日の哀感をそつてやまないヨ……吾が輩は普通選の政治現象選舉事實には、全く以つて絶望した。

所謂『清キ一票』は、果して、清く正しく、合理的、立憲的に行使せられたか？

是れ大なる？ダ……君……最高點當選者は選舉費、最高點當選者の観があるデハナイカネ？ そして、最下點當選者は、最低選舉費使用者デハアルマイカネ？」

政治狂「君の云ふ通りだよ……全く普通選の第一歩は大失敗だよ。憲政の前途憂ふべしだ」

平銀前、十字街頭、夜十時、二人の盲人バツタリ、出合ふ。

甲「景氣はどうしたネ？」

乙「大景氣だ……選舉騒ぎで、クタバシと見え、大分俺達の商賣も繁昌といふわけさ」

甲「大きに、大きに……」

乙「ホントニ、そうだ……一體全體、お前さん、誰に『清キ一票』を入れたかい？」

甲「それだテ……何しろ十一人の候補者だ。しかも俺達は、目が見えぬ、候補者のツラも判らぬ。そこで考へた俺達は、労働者だ……」

乙「ウーン……お前さんは流石に偉いよ……見上げたものだ……おれは棄權してしまつた。」

甲「どうして？」
乙「目明きでさへも、誰に投票していか迷つて居る有様だ、況んや盲人などは遠慮した方がよいと考へたものだから……」
甲「メクラ、メッポーに入れ、ばよかつたに」
乙「アハ……」
二人の盲人は、かう冷かに人の世を嘲笑する様に、月下、しばらく物語つて、西と東に別れた。ビヨロ〜と吹きならす笛聲のみ、いはれ知れぬ哀感をいやが上にもそつてやまない。
(七日大津海岸旅館にて認む)

緑雨生

川前村會議員	矢野	新妻	新山	永田	竹内	矢野	内田	永田	山崎	伊藤	安藤	龜尾	德田	福松	飯場	三谷	山下	勿來町大日本炭礦	元磐城中學校長	植竹	源太郎	釜屋商店主	橋久太郎	平銀行頭取	崎與三郎	磐城銀行專務取締役	白井一郎	堀江工業株式會社	江口忠一	好間軌道株式會社	山崎佐市郎	内郷村々會議員	藤又丈一夫
--------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	---------	----	-----	-------	------	-------	------	-----------	------	----------	------	----------	-------	---------	-------

磐越銀行頭取	中野甲藏	東部電力株式會社	武田精一	湯本町區會議員	比佐源造	工業商會	佐々木健一郎	石第一區小學校校長	石第二區小學校校長	石第三區小學校校長	郡第四區小學校校長	平町私立學校校長	懇話會	平運輸株式會社	平材木商業組合	平理髮屋組合	平藝妓屋組合	平料理組	平伊勢屋	平二丁目一三	大目一三	平町研町	吉村製綿店	電話二五七	平町四丁目	小野藥店	電話一四四	平町三丁目	會田時計店	農工銀行平支店長	河野八十治	平町鎌田町	町會議員	佐藤岩次郎	七十七銀行支店長	小原長英	釜清支配人	河田梅吉
--------	------	----------	------	---------	------	------	--------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----	---------	---------	--------	--------	------	------	--------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	----------	-------	-------	------	-------	----------	------	-------	------

平町田町	干葉發身	平町會議員一同	平町信用組合	平町四丁目	卜印魚問屋	電話五二八	平町三丁目	三井吳服店	電話三八	平町四丁目	磐城工業商會	電話一八	平町大工町	多田井質店	平町白銀町	釜清商店	電話三二九	諸機械販賣	日東商會	電話六五〇	平町三丁目	西村屋藥舖	電話三番	平町四丁目	醫藥藥品	關内藥舖	工業藥品	有名賣藥	洋酒罐詰	染料塗料	電話四〇番	電話略(七キ)	電話六六一六番	平町五丁目	山野邊藥局	藥劑師	山野邊東次郎	平町四丁目	柴田書店	電話二三四	平町二丁目	坂田金物店	電話一八	和洋酒類商	廣瀨支店	電話五七	平町字田町	高久病院	電話一三五	院長醫學士	高久忠	以下	次號
------	------	---------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	---------	---------	-------	-------	-----	--------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	-------	------	-------	-------	-----	----	----

合名會社

電話一〇番・二七番

振替貯金口座東京一〇九五六番

電話九番一三九番

祝 創 刊

古河礦業株式會社	小田炭礦株式會社	入山炭探株式會社	磐城炭礦株式會社	遠藤俊一 雄	吉田正雄	川井重之	大敷綱事務所	山崎植田 登	安島重三 郎	好間村長 收入役 渡邊 成 榮 清	同 猪 狩 金 之 助	草野村會議員 鈴 木 喜 三 郎	磐城セメント四倉工場 四倉銀行會社組合	新馬場 末末 江	菅波 富 兵 太郎	菅波 富 兵 太郎	久の濱商事株式會社 堀部 留 造	久の濱大敷綱事務所
----------	----------	----------	----------	--------	------	------	--------	--------	--------	-------------------	-------------	------------------	---------------------	----------	-----------	-----------	------------------	-----------

飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員	飯野村長 縣議候補者 村會議員
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎	信用組合 江崎
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

川前村 助長代理 松本 武之 雄	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松	赤井村 村會議員 根野 忠 松
------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

當 巽 御 豐

鈴 木 辰 三 郎

古 川 傳 一 山 崎 吉 平